

道徳「あなたが生まれた日」について

今日は命について考えてみました。



先生が初めて命を実感したのは皆さんと同じ、中学一年生のときだったと思います。ある日、兄が親に内緒で友達からハムスターを2匹もらってきました。内緒で飼うことなんてできるわけないのに、あの頃は私もばれないと思っていました。当然すぐにばれたのですが、渋々ながらも？親の許可はおりました。自分たちで飼うと決めたハムスター。兄と一生懸命育てました。餌をあげたりゲージの掃除をしたり、時々かまれたり…（これがすごく痛い）小さな命は私たちが預かっています。世話をする喜びを感じたのもこの頃かもしれません。…とある日、ハムスターの寝床に何やら赤いものが…「赤ちゃん!!!!!!」小さな命の、さらに小さな命。ハムスターの赤ちゃんは、生まれたばかりの頃はまだ毛が生えていなくて赤い豆粒みたいなのです。豆粒みただけどきちんと動いている。生命の誕生を目の当たりにし、なんとも言えない喜びを感じました。

その後、さすがに全ては飼うことができないので友人に渡したりして、数匹を大切に育てましたが、数年経ったある日、最後の一匹が動かなくなっていました。冷たくて、硬くて、それがとても怖くて。暖かくてふわふわしていたのに。生きてるってあたたかいんだって、その生命の感覚がすごく手に残りました。

「命は大切にしましょう」当たり前です。どの命も大切です。だって命の誕生をみんながこんなにも喜んでくれるのだから。命について考えること、なかなかないかもしれません。道徳はそれを考える時間なのだと思います。いつも考えないことを考えてみんなで話す。学校でみんなの考えを聞けることを楽しみにしています。